

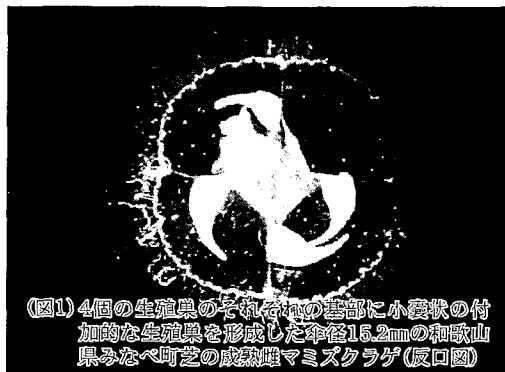
和歌山県みなべ町で最近採集されたマミズクラゲ (ヒドロ虫綱, 淡水クラゲ目, ハナガサクラゲ科) の成熟クラゲ

久保田 信

マミズクラゲ *Craspedacusta sowerbyi* Lankester は日本全国から記録されており、日高郡みなべ町でも3箇所の池で1966年から1975年まで報告された(山本, 1966; 大野, 1987)。これらの記録に続いて、今回、みなべ町芝に所在する溜池(五反池)で、2007年8月下旬に多数個体が群泳しているのが偶然に発見され、2007年9月初旬に採集した61個体に基づき性別を調べ、最大個体で触手数と感覚器数を測定し、近郊の田辺市や白浜町の個体群との形態比較を実施した結果を報告する。

結果と考察

今回採取した61個体のクラゲはすべて成熟した雌であり、その半数は傘径が同じ値を示し、15.2mmであった。大半の個体の生殖巣が同じ形態で、無色扁平で細長く先細りの形態を示したが(52個体、傘径 14.4-16.7mm)、長楕円形(6個体、傘径 15.2-15.9mm)や楕円形(3個体、傘径 12.9-15.2mm)まで変異が見られた。このうちの先細りの生殖巣をもつ7個体では、小嚢状の生殖巣が本来のものの脇に付加されており、1個の生殖巣だけ、あるいはすべての4個の生殖巣の基部に見られるもの(図1)まであった。



(図1) 4個の生殖巣のそれぞれ基部に小嚢状の付加的な生殖巣を形成した傘径15.2mmの和歌山県みなべ町芝の成熟雌マミズクラゲ(反口図)

今回採集した最大個体(傘径16.7mm)では、触手が複数の束にまとまった長短あわせたもの445本、感覚器203個が見られた。この値は田辺市の辺谷池や白浜町の中池産の個体と比べて大差はなく、中国や韓国などの大陸産のマミズクラゲよりも触手数が倍以上あり、感覚器もより多数あった(久保田・田名瀬, 2006)。

今回も田辺市の辺谷池や白浜町の中池での生息状況と同じように(久保田・田名瀬, 2006)、マミズクラゲは片方の性しか捕獲されなかった。なお、今回ごく少数個体では、採集時に胃腔中に多数のミジンコ類や少数のユスリカ類が見られた。一方、本年9月上旬と中旬に上記の辺谷池や中池でマミズクラゲは発見できなかった。

謝辞

本個体群発見の教示と採集の手伝いをして下さった和歌山県白浜町の長山 翼氏に深謝します。

引用文献

- 久保田 信・田名瀬 英朋. 2006: 和歌山県中南部域で採集されマミズクラゲ(ヒドロ虫綱、淡水クラゲ目、ハナガサクラゲ科)の成熟クラゲの生物学的記録. 日本生物地理学会会報, 61, 75-79.
- 大野正男. 1987: 分布を中心とした日本のマミズクラゲ総説. 日本の生物, 1, 44-53.
- 山本虎夫. 1966: マミズクラゲの新産地. 南紀生物, 8, 66.

(〒 649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459
京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所)